



広げよ 可能性の地図、  
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実  
山口県立小野田高等学校  
校長通信（発行不定期）

平成30年11月1日 **第7号**

## 郷土の歴史に学ぶ～明治維新150周年～



松下村塾

萩の町を訪れました。わずか18畳半しかない粗末な掘っ立て小屋を眺めるために。その小屋には「松下村塾」と墨書きされた看板がかかっています。その前に佇み、目を閉じ耳をすまます…吉田松陰があらわれました。周囲には高杉晋作や久坂玄瑞が、伊藤博文もいました。松陰は孟子を詠み、晋作と玄瑞は激論を交わしています。博文は塾の前の畑を耕しています…。

幕藩体制が揺らぎ、迫りくる欧米列強の脅威にさらされていた幕末の日本。この国難を前に立ち上がった一群の若者たちがいました。「このままでは、日本は滅びる。なんとかしなければ」。権力も地位もお金もなにもなかった松下村塾の若き塾生たち。

しかし、彼らには強烈な危機感と現状打破の想いがありました。自らが時代の魁となり、世のため人のため、命を賭ける覚悟がありました。彼らは志をもち行動します。この国を変革し、良き未来を創るために。

風雲急を告げる動乱の幕末。尊王攘夷・倒幕運動が激化していきます。その激動の時代の渦のなかには、必ず彼らの姿がありました。その過程で非業の最期を遂げた者も数知れず。安政の大獄、禁門の変、幕長戦争…。しかし、歴史は回天します。江戸から明治へ。まさしくこの松下村塾は「明治維新胎動之地」の地となったのです。

私たちは、何故歴史を学ぶのでしょうか。受験のため、教養を得るため、あるいは興味・関心があるから…様々な理由があるでしょう。しかし、私はこう思うのです。先人の想いを受け止め、彼らの生き様に学ぶために歴史を学ぶのだと。とりわけ、郷土の歴史を学ぶ意味には、その目的意識が求められると思います。

小野田高校の生徒諸君。君たちの故郷山口県は、かつて日本変革の担い手となった若者たちを数多く輩出しました。その地で学び生活している君たちには、知識を得るためだけでなく、志を持つために、また己の生き方を確立せんがために明治維新を学んでほしい、そして、自他のためにたくましく生きる人物になってもらいたい、と願います。

明治改元から150星霜。今年、山口県では、明治維新に関わる数多くのイベントが開催されています。一度参加してみてもどうでしょうか。吉田松陰や高杉晋作の志や想いを感じられるかもしれませんよ。





**「よく生きた。そう言って死ぬために」。**

講師の西野先生は、自転車に乗って全世界を紀行されている方です。**人生は1度きり。ならば、その人生を精一杯生ききりたい。**それが先生が旅をされる理由でした。

先生の旅は、日本国内にはじまり、ヨーロッパ・アフリカ・南米等80カ国以上に及んでいます。そのなかには、平和で豊かな国もありますが、戦争や紛争、飢餓や疫病等で、**多くの人々の生命や人権が脅かされている国や地域もありました。**

映像とともに語られる先生のお話は衝撃的でした。飢えや寂しさを紛らわせるためにシンナーを吸う少年、内戦の最中に兵士から腕を切り落とされた女性、勉強ができるので一人前とみなされ学校をやめさせられる少女…世界はなんと不条理に満ちているのでしょうか。

最後に、先生が君たちに伝えられたメッセージは、**自分の夢と人間の夢（人間らしく生きられる社会）の実現のために生きていくこと**でした。

本当に感動的な講演会でした。最後に先生が吹かれたオカリナの音色も、心にしみ通るような美しい調べでしたね。

#### 講演会感想シートから

- ・自転車で世界旅なんて本当にすごい。世界中の写真もオカリナの音も本当に綺麗で、内容も深かった。
- ・挑戦することは誰だって怖い。でもスタートラインに立つことが大切だということがよくわかった。
- ・「よく生きた。そう言って死ぬために」旅を続けておられる西野さんに率直に感動した。
- ・人生は一度きり。自分の人生を精一杯充実して生きることの大切さを教わった。
- ・世界には学校に行きたくてもいけない人がいる。私は一生懸命勉強して自分の夢をかなえたい。
- ・私は恵まれている。だから、もっと今の環境や親や友人に感謝の気持ちをもって、生きていきたい。

### 3年生推薦入試に向けて

3年生の皆さん、受験勉強は進んでいますか。11月は**推薦入試**のシーズンです。合格を勝ち取り志を果たしてほしい。心からそう願います。

推薦入試で多く課せられるのが、**小論文と面接**です。ともに事前準備を十分にしていないと、一夜漬けでは絶対に成功しません。

志望校にもよりますが、多くの大学で出題されているのは、長文を読ませ、要約させたり、自分の意見を述べさせる課題文型小論文です。しっかりと文章を熟読した上で、根拠のある自らの意見が求められます。大切なことは、小論文を読むのは自分ではなく試験官だということ。読み手に伝わる**わかりやすく論理的な文章を書く**ように心がけてください。

面接も同様です。面接官の目をしっかり見つめ、大きな声ではきはきと質問に答えましょう。最も大切なことは、**面接官の質問をよく聞き、質問に正対すること**です。高校時代に頑張ったことや志望動機などは想定される質問とみなし、事前によくまとめておきましょう。口頭試問やプレゼンテーションを課す大学もありますので、準備はしっかりしておいてください。

最後に、推薦入試で合格できるとはかぎりません。センター試験受験も見据え教科の学習も怠ることがないように。くれぐれも**推薦入試対策だけに特化しないように**留意してください。

